

平成 30 年度 未来をつくろう 市民と市長の地域懇談会

報告書



日時 平成 30 年 9 月 28 日 (木) 午後 6 時 30 分～9 時 20 分

場所 北の峰コミュニティセンター

参加者数 28 人

市側出席者	市長	北 猛俊
	副市長	石井 隆
	教育長	近内 栄一
	総務部長	稲葉 武則
	市民生活部長	山下 俊明
	保健福祉部長	若杉 勝博
	経済部長	後藤 正紀
	建設水道部長	吉田 育夫
	教育部長	亀淵 雅彦
	ぶどう果樹研究所長	川上 勝義
	企画振興課長	西野 成紀
	財政課長	藤野 秀光
	財政課主幹	高田 敦子

【市長 開会のあいさつ】

夜分にも関わらず会場に足を運んでいただき、地域懇談会を開催できますこととお礼申し上げます。5月に就任させていただいてから4カ月が経ちましたが、この間、2回の定例会があり、市長室トークも2回開催させていただきました。また、市民のみなさまからも様々なご提言をいただきながら、市政の運営に務めているとろろです。

当初就任させていただいたときに、当面解決をしなければならない重要な課題として、「JRの問題」「市庁舎の問題」そして、本日のテーマにはなっていませんが「地域医療の問題」を挙げさせていただきました。この間、JR根室本線対策協議会、新庁舎の市民検討委員会の立ち上げにより対応をさせていただいています。

本日は、「JRの問題」と「市庁舎の問題」の2点について、これまでの経過、行政としての進むべき方向性を説明させていただき、みなさんからご意見をいただきたいと思ひます。また、地域で抱えている課題など、短い時間ではありますがご提言いただければ幸いです。

いずれにしても、まちづくりの基本姿勢は、市民のみなさんと共にまちをつくっていくことです。そのためにも、みなさんのご意見が重要になってきます。そして、そのご意見を実現するために、みなさんと一緒に歩いていくということが大事になってくると思ひています。そのような意味から、本日の地域懇談会では、みなさんの忌憚のないご意見をいただき、市政運営に反映させていきたいと思ひますので、よろしくお願ひいたします。

1. 鉄路のあり方

【ご意見】

- JRは、ある程度の支援をしてでも残すという考えだが、国では400億円に相当するような負担を地方に求めている。仮にそのような支援になった場合、市として負担する金額はどのくらいになるのか。試算の段階で国から要求される金額として想定される最大限の金額はいくらなのか。
- JR北海道だけでは再建できない。最大限、国が支援して、根室線、富良野線を維持してもらいたい。
- 国が北海道の農業や観光を守るのであれば、国が一定の負担をして地方の負担を少しでも少なくする。JRへの支援策としても2年間の財政支援だけで解決するような問題ではない。本当にJRの利用が増加するのかというと、人口減少や高齢社会の北海道では、地方のローカル線は守られない。そのためにも、国の支援策を優先に考えていく必要がある。
- 地方の負担は、50市町村だけでなく、道内のすべての市町村が負担するようにするべきではないか。
- 鉄道は高速大量輸送。旭川-富良野線は、通勤、通学、観光で高速大量輸送ができる路線。現在の富良野線を、千代ヶ丘を越えて、アンダーパスを過ぎたあたりから右に線路をもつていき、空港につなげる。空港で乗客を乗せたあと、西神楽の踏切を渡ったところにある線路の切替ポイントに接続する。通過するのは西聖和駅になる。JR北海道がいう採算のとれる空港利用客数は終着の場合の人数。空港を終着にするのではなく、経由する方法であれば、現在の利用客数に対して上乘せが期待できる。JR富良野線は空港通過型の路線を検討して欲しい。
- 現在の駅舎は階段があり不便。駅舎の改善により利用のしやすい環境を整備する必要がある。
- 富良野駅の駅舎は3つのホームがあるが、改札に一番近いホームは階段を使わずに乗り降りできる。一番手前のホームを客車の発着で利用できるようにして欲しい。

【市の回答・対応方針】

- JRは、3路線とも存続させるという基本姿勢で、関係市長村が国に対して要請活動を行っています。
- 国は2年間で400億円を支援するとの考えが示し、地方自治体にも同水準の負担を求めています。しかし、この「同水準」とは400億円ではありません。400億円のうちの一部を国と地方自治体が同水準で負担をするということです。その一部の金額については、具体的な金額が示されていない状況です。しかし、毎日新聞に掲載されていた記事では概ね100億円で、国が50億円、地方自治体が50億円と報道発表しています。仮に地方が50億円を負担すると想定したとき、道と市町村の負担割合はどのようになるのかわかっていませんが、担当者レベルの試算では、仮に50億円を道と市町村が同じ負担割合で、市町村が負担する金額が25億円だとします。単独で路線を維持するのが困難な市町村は50市町村あるので、単純に均等割すると1市町村あたり5,000万円程度になります。また、仮に道が8割を負担した場合は、1市町村あたり2,000万円程度です。
- 根室本線連絡協議会と同じように、富良野線も富良野線連絡会議をJR、国、道、市町村で組織しています。JR北海道が単独で維持することが困難な路線のうち、最も輸送密度が高いのが富良野線で、現在1,500人となっています。JR北海道は輸送密度が2,000人を超えると黒字に転じるといわれています。富良野線連絡会議では、あと500人をどのようにして増やせるのかを議論しているところです。しかし、少子化のなかで通学する学生は減少すると見込まれるため、外国人観光客に期待をしています。外国人観光客は、国は2020年までに5,000万人。北海道では500万人を目標にしています。現在、北海道では260~270万人であることから、仮に北海道の外国人観光客が500万人に達した場合、富良野線についても500人の増加が見込まれるのではないかと考えています。
- 昨年の地域懇談で、JR富良野線を旭川空港に直結してはどうか。というご意見をいただき、旭川空港への利便性について富良野線連絡会議のなかで要請しています。しかし、採算が見込まれる空港利用客数は年間300~400万人といわれています。これに対し、旭川空港の年間利用客数は100万人です。11月の国際線が開通しても140万人でJR北海道からは厳しいといわれています。
- 駅舎の1番線ホームは、貨物列車専用となっています。このため、旅客用とする場合、ホームを嵩上げする必要があります。昨年の地域懇談会でいただいたご意見ですが、JR北海道に要請したところ、工事費が高額になるため、1番線の旅客乗り入れはできないといわれています。

2. 新庁舎建設について

【ご意見】

- 建設費58億円で30年間の返済を想定しているとのことだが、他の施設の修繕費も必要になってくるが、その財源がなくなるのではないかと。人口減少社会のなかで、市の人口も急に減少していく。また、高齢社会による医療費や福祉費の増大も見込まれる。支出は増えるが、収入は減っていく。そのなかで、今後30年間も返済ができるのか。収支の見込みは出していないのか。
- 耐震改修をすると工事費はいくらかかるのか。市庁舎を新築する費用と既存建物を改修する費用の比較はしているのか。

- 人が集まるような政策をうち出していないと、どんどん人口減少がすすんでいく。移住者のなかには、子育て支援などの政策を比較して移住先の市町村を決める人もいる。新庁舎の借金により、財源が確保できず、近隣の他市町村に比べて政策が不十分だと、住むのに選ばれないまちになる。30年間の収支見込みを教えてください。
- 今回の国策に乗っていかねば庁舎建設ができないのは理解できる。58億円の借財を30年間で返済するシミュレーションを出し、多くの市民の意見を早く聞く必要がある。借金に対して市民は敏感になる。建築費は東日本大震災以降高くなり、来年は消費税もあがる。借財や工事費に関して具体的な金額を示す資料を出してほしい。
- コンシェルジュのなかに商工観光課が移ったが、本当にあの位置で良かったのか。市職員の横の連携がとれているのかと思う。新市庁舎建設で検討してほしい。
- 検討委員会は非常に重要な委員会だと思う。どういう人がいて、どんなことが検討されているのか、市ホームページだけでなく市広報などにも掲載して情報公開してほしい。職員ワーキンググループや市民ワークショップの検討内容も情報公開してほしい。
- 上川管内にある他市の庁舎建替えでは、人口減少を見込んで庁舎の規模を極力小さくしている。庁舎外の部課は、将来的に職員数が減ってきたときに集約するとしている。また、市民アンケートを実施して、一部改修か全部改築のどちらが良いか、市役所の窓口で何が一番不便かを聞いている。市民は市役所にほとんど行かない。市民が何を望んでいるのかを把握してほしい。
- 現在の位置は、市庁舎、文化会館、末広コミセンなど、1m～2mの浸水が想定されている。耐震だけではなく、水害についても検討する必要があるが、職員ワーキンググループの防災セキュリティ部会は、何回くらい開催しどんな議論がされているのか。
- 文化会館は市町村役場機能緊急保全事業に該当するのか。文化会館を合築した場合、どのくらい経費節減になるのか。
- 市の年収が23億円のうち、人件費は20億円以上になっている。自主財源は、ほとんどないのが現状ではないか。JRの関係の費用負担に加え、市庁舎の借財の支払いができるのか。
- 過去に千葉県で震度6を経験し被災したことがある。当時、東京都周辺でも建築後40年を過ぎた建物を耐震改修していたが、震度6の地震で壁に亀裂が入ったため、現在は建替えを検討している。建築後50年になる建物は、耐震改修ではなく建替えた方が良い。
- 市役所を一番多く使うのは、市長と市職員。職員が一番働きやすいように設計するのが一番ではないか。市民が市役所に入ったときに、職員が一生懸命働いていると感ぜられる窓口業務になれば良い。元気のある会社は、社員がいきいきと働いている。社長は社員のために良いオフィスをつくる。市長は職員がいきいきと働ける場所をつくる。職員のために新しい庁舎をつくる。という理念をもって取り組んで欲しい。
- 市民が不安に思うのは、内容がわからないまま事業が走り出すということではないか。市民の意見をどうやって拾い上げるのか。機会をみて再度説明会をするとしても、その間に何を検討しているのか。疑問をもたれないようにしてほしい。
- 検討委員会の公募市民は3人。選ばれなかった者もいれば、人がいないからと声をかけられた者がいると聞く。市民の意見をどのように拾い上げるのか。市議会推薦が4人。議会や市民の代表として、地域の代表として、どのようなかたちで市民の意見を聞くのか。そういうことを市民に見えるかたちにして欲しい。

- 検討委員会の構成になかの学生ワークショップはどのような位置づけか。
- 富良野小学校の周辺は、洪水のときに1 m浸水するとハザードマップの記載されている。現在の市役所は2 mくらいの浸水になると思うが、新庁舎の1階部分は地上から3 mくらいの高さになるのか。バリアフリーを考えたとき、長いスロープを上っていくのか。洪水のとき、富良野小学校は避難場所になっていない。周辺住民のためにも、新庁舎を避難場所にしてほしい。
- 庁舎の老朽化や耐震性不足を考えれば、職員の生命を守るためにも建替えは賛成である。文化会館と市庁舎を一体で建てるということだが、現在の庁舎の前庭は残して欲しい。前庭を残したまま、現在の位置に建て直すと、仮設庁舎も必要になることも想定してもらいたい。
- 議場が使われるのは年間30日から90日間くらい。残りの300日は使われないため、市民が有効利用できるように検討して欲しい。

【市の回答・対応方針】

- 耐震改修工事の費用は、概算で20～30億円と試算しています。現在、基本計画と基本設計を委託する業者が決まりましたので、改めて耐震改修工事にかかる費用の積算をしているところです。結果については、検討委員会で協議し市のホームページなどでお知らせします。
- 耐震改修をした場合は建物の免震にはなりませんので、20年程度しかもたないといわれています。また、現在の庁舎は、地下に電気設備があり、1階には市役所のサーバー機が設置されているため、洪水の場合には被害を受けると考えられます。
- 検討委員会の公募委員の選考は、年齢や性別、志望動機等の項目で点数をつけ選考しました。全体の構成として女性の参加が少ないため女性の推薦を依頼した団体もあります。
- 借財をどうするのか。現在の財源でできるのか。という説明資料が不足していると思っています。今後、情報を提供していきながら、市民のみなさんにわかりやすい説明をしていきたいと思っています。
- 検討委員会や市民ワークショップの取り組みは、市広報に限らず情報提供の方法を検討していきます。
- 職員ワーキンググループは8月に組織し、耐震と水害の両方について防災セキュリティ一部会で検討することとしています。耐震性能については、免震か耐震かも検討していきます。
- 職員のための庁舎ということよりも、一番には、まちの魅力づくりにも大きく関わってきます。まちづくりといえば、市民と一緒に行動する。市民のみなさんが責任をもって対応をいただき、行政が市民と一体となってまちづくりに努めていきたい。その拠点となるのが庁舎ということなので、市民にとっても魅力のある庁舎でなければならないと思っています。現在は、概算で積み上げたものしか説明できませんが、今後、検討委員会や市民ワークショップ等の各部会で検討したことを積み上げながら、報告の機会を持ちたいと思っています。最終的に、市民のみなさんに意見をいただいて、こういう庁舎になりそうですといえる段階で、また、みなさんにご判断をいただきたいと思っています。今回の地域懇談会では、58億円について関心を持っていただきましたが、それがすべてではありません。まちの魅力づくりという意味では、若い方々にもまちづくりに参加していただけるような取り組みもしていかなければならないと考えています。また、人口減少の問題では、2万人を切ると市の経済にも大きな影響がでてきます。若い方に富良野に住んでいただける環境をつくり、人口が2万人を切らないように、できれば人口が増えるように、いろんな施策を打っていきたくと思っています。

- 文化会館は、市町村役場緊急保全事業に該当しませんので、集約化複合化事業で考えています。
- 検討委員会の委員は、連合町内会、観光協会、市PTA連合会、商工会議所、社会福祉協議会、文化協会、老人クラブ協議会の7団体から7人の委員を選出しています。公募委員は3人、市議会議員委員は4人、学識経験者として東海大学の教授、市職員6人、あわせて21人となっています。
- 職員ワーキンググループは8月からスタートしています。4つの部会があり、各部会1～2回の開催状況で、市庁舎に備える機能の検討をすすめています。職員ワーキンググループの検討結果は、検討委員会で協議をすることになりますので、そのときに市ホームページ等でお知らせします
- 検討委員会の学生ワークショップは、将来まちづくりを担う高校生や中学生を対象に、時間的余裕があれば、ある程度の計画案ができた段階で、意見を聞く機会をつくりたいと考えています。
- 現在の市庁舎は土盛りがされていて、地面から少し高い位置に建っていますが、設計業者からは、さらに高くする必要があるといわれています。最悪の場合は、1階全部が浸水しても2階以上で行政機能を発揮できるようなつくりをしたいと思っています。
- 新庁舎の避難所指定は、基本構想では、文化会館の機能を併設することで多目的スペースをつくり、そこを一時避難場所や選挙の投開票にも使えるようにしたいと考えています。
- 富良野小学校周辺の避難所についてですが、洪水のときは垂直避難ということで自宅の2階に避難するという考えが広まっています。避難所の設置については、全市的な見直しをしたいと思っています。

3. 子育て支援・人口減少・商工労働について

【ご意見】

- 富良野市の子育て支援は未就学児まで医療費無償だが、全国的には小学生まで医療費の無償化をしているところが多い。子どもが小学生になったら市外に転居する人もいる。移住者を増やすことも大事だが、市外に転出する人を少なくする方法も考えて欲しい。
- 子育てママさんの農作業ヘルパーを、農家だけでなく、人材が不足している観光業や飲食業などにも活用できないか。必要としている業種や店舗と働きたい人とのマッチングをして欲しい。
- 富良野市内の高校を卒業しても市外に就職する人が多いが、緑峰高校に観光科をつくり、観光のことを高校で学んで、卒業したら富良野市内のホテルなどで即戦力として働いてもらう。高校で観光を学べる学校は少ないので、全国から入学者を募り、新卒者が富良野市内で就職して根付き、子育てができるような環境をつくって欲しい。
- 全国調査で住みたい都道府県1位は北海道。あこがれて移住する人は多い。富良野市は住んでみても本当にいい場所。もっとアピールしても良いのではないかな。

4. 地域の課題と要望について

【ご意見】

- 地域の子ども会活動は町内会活動の担い手として大事な自治組織であるため、支援をお願いしたい。
- 北の峰町は外国人観光客が増えている。バスを利用する外国人も多く、旭川行きバス停の場所を間違える利用者もいる。外国語による案内表示が不足しているため、バス停などへの設置を検討して欲しい。
- 宅地造成中の場所に道路が整備されたが、市道に認定されるのか。

【市の回答・対応方針】

- 宅地造成中の場所の工事は完了していますが、市道への取り付け協議ができていないため認定ができていません。協議は警察と行いますが、9月の台風や地震に関係で手続きが遅れている状況です。業者には、地域に迷惑がかからないように草刈りなどの保全対策をお願いしています。

【市長 閉会のあいさつ】

長時間に渡って有意義なご意見をいただきましてお礼を申し上げます。貴重なご意見を市庁舎の関係、JRの関係でいただきました。本来は、どんな市庁舎にしてほしいのかをお聞きしたいところですが、一番は負債に対する不安だということをお教えいただきました。今日いただいたご意見は、市民検討委員会に報告させていただきます。

また、今日の地域懇談会だけでは言い足りないという方もいると思います。市庁舎の関係や地域の関係、子育ての支援のあり方、働くお母さんの関係、観光業の担い手の関係など、この場で終わらせるのではなく、もっと具体的にご意見を聞かせていただく機会をいつでも設けています。市長室トークというのもありますので、そうしたところでご意見を聞かせていただければありがたいと思います。

いずれにしても、これからのまちづくりで大切なのは、子どもからお年寄りまでが、公共のなかで積極的に参加をいただいて、一緒にまちをつくっていくということが大切だと思っています。今日の地域懇談会が、次につながる一歩になることを祈念させていただいて挨拶とさせていただきます。

【参加者アンケートの主なご意見】

年齢区分	性別	ご意見
30-39 歳	女性	昼間や土日に開催して欲しい。子育て世代が夜に参加するのは非常に大変。
40-49 歳	女性	新庁舎の関係で、市民ワークショップの部会に「子育て世代のグループ」を設置して欲しい。未来の大人が富良野を支えていくので、子どもを育てやすく、育ちやすい富良野市をつくって欲しい。
50-59 歳	男性	「市民と市長の地域懇談会」というより「富良野市民地域懇談会」が良い。
50-59 歳	男性	JR富良野線に関する事で、お手伝いできればうれしい。いきいき働く職員がいる市役所が大切だと思う。
60-69 歳	女性	民泊が乱立していると感じる。安心安全に住み続けられるように条例などの制定を考えて欲しい。
70 歳以上	男性	10年以上JRを利用して札幌市に行っているが、市職員が乗っているところをみたことがない。もっとJRを利用して欲しい。市庁舎の関係は、そんなに急ぐ必要はないと思う。補助金ありきはわかるが、資料不足と情報不足が目立つ。十分な検討時間が必要。
70 歳以上	男性	他市の市庁舎建設では、市庁舎建設の課題を地域説明していると聞く。富良野市も情報開示をして欲しい。